

市史の小径

第30回

古墳は無数に築かれた

市

史第一巻では古墳時代（今から1400～1750年前）に多くのページが割かれました。この時代、各地の首長たちは、ヤマト政権に参加した証として、巨大な前方後円墳を競って築造します。墓が単に埋葬の施設だけではなく、政治的なモニュメントとして築かれた時代です。

なかでも水口町泉の塚越古墳は一辺52mの大型方墳で、珍しい金銅製の冑などの豊富な副葬品が出土し、この時代の甲賀市地域の首長の権力を象徴する存在です。

しかし、これ以降は市域では大規模な古墳は見つかっておらず、かわって墳丘の直径10m前後の小規模な古墳が数多く築かれます。特に野洲川と杣川の合流部付近の山麓には286基が確認されており、まさに山肌を埋め尽くす勢いです。

これらの古墳群を総称して「甲賀群集墳」と呼び、いずれも遺骸を埋葬する施設が朝鮮半島から新たに伝わった「横穴式石室」であることに



▲石室を調べる

特徴があります。

その姿は、『古事記』にのるイザナギの黄泉国訪問をイメージさせる多人数を合葬できる家族墓と呼べるものです。この頃から古墳は本来の埋葬施設の姿に戻りつつあり、集団の結合を強く打ち出すようになってきます。

記録に残らない甲賀の先人たちが主役になった時代、それが「群集墳の時代」であったのです。

『甲賀市史』

第一巻販売中（1冊3,500円）

■販売場所

【水口】三宝堂書店・ハタヤ書店・山川書店・山田書店・水口歴史民俗資料館

【土山】ウエノ・土山歴史民俗資料館

【甲賀】かふか生涯学習館

【甲南】本の一歩館・甲南庁舎市史編さん室

【信楽】谷川書店・信楽中央公民館

購入・問い合わせ

歴史文化財課

市史編さん室

（甲南庁舎3階）

TEL 086-80075 FAX 086-8216

みんなの窓

メリーちゃんを知っていますか？

甲賀市の歴史から平和と人権を考える

甲南第二小学校のメリーちゃんは、青い目の女の子です。80才を越えた今もかわいらしい少女です。それもそのはず、青い眼をしたお人形はアメリカ生まれのセルロイドと歌われるあのお人形さんなのですから。

1920年代、アメリカで日本人移民に反対する動きが起こり両国間に緊張が高まりました。これを心配した親日家ギュリック博士の呼びかけによって250万人の少年少女がお金を出し合って人形を作り、手作りの服を着せ「仲よくしましょう」という手紙とともに日米友好使節として日本の子どもたちに贈られました。1万2千体のお人形さんを迎え、横浜の港では盛大な歓迎式が行われたそうです。滋賀県の学校には、そのうち135体を送られてきました。現在はそのうち4体しか残っていません。メリーちゃんは、貴重なその1体なのです。

戦争中に、敵国の人形として処分されることを危惧した校長先生がこっそり隠されたと聞いています。当時の情勢を考えると、それはとても勇気のいる行動でした。

再び校長室に飾られたメリーちゃんは、子どもたちや

先生をはじめ地域の人々にも大切にされてきました。地域の方が古くなった洋服に心痛められて、手縫いで新調してくださったとうかがいました。学校では、この宝物を生かして平和学習に取り組んでいます。

一方、海の向こうニューヨークの高校では、このほど広島原爆被爆者の方を招いた授業が行われたとのTV報道がありました。原爆を肯定する世論が大勢をしめるアメリカにあって、高校生たちは平和に向けた新しい世界の枠組みを熱心に議論していました。被爆者の方が「来てよかった。高校生と語れたことで、未来はまだまだ希望があると思えた」と語っておられたのが印象的でした。

歴史は今も、私たちの手で創られつつあります。過去を真摯に学ぶことでしか平和に満ちた未来を創りあげることはいけません。

人権教育連続セミナー③ 6月21日出

「青い目の人形と陶器製爆弾を通して
平和を考えるフィールドワーク」

問い合わせ 人権推進課 ☎65-0693 FAX 63-4582